

養護学校・盲学校を学ぶ

本日、小学部5年生が総合的な学習の時間に旭川盲学校を訪問し、視覚障がいについて学びました。私も一部一緒に説明を聞かせていただきましたが、非常に学びの多い時間になったと思います。きこえないということだけではなく、見えない（見えにくい）という障がいなど様々な障がいのことを知ることは、多様性を学ぶ上でとても大切なことです。

盲学校では、校内を案内していただいたり、視覚障がい当事者の立場から視覚障がいの先生に説明していただいたりしました。校内の見学で子どもたちは、校内の展示物にも点字が付されており、でこぼこした点字や感触の違う素材を使った掲示物を実際に触って感じていました。見え方の違いを触覚や聴覚、嗅覚や味覚だけではなく、心で感じることが大切だという話を児童たちはどのように受け止めてくれたでしょうか。すぐにはわからなくても、自分たちのことと同じこととして感じてくれることを期待しています。



左は点字を打つパーキンスブライラーというものです。この機械を使って点字を打ってみる体験をしました。自分の名前を打ってみたのですが、一文字一文字同時に複数のボタンを押さなければならぬので、初めての体験ということもあり、力の加減などもわからぬいため、かなり緊張していました。4人はできあがった点字の名前を触って嬉しそうでした。

盲学校の子どもたちとも交流させていただき楽しい時間を過ごすことができました。



白杖体験をしました！

また、5年生は12月4日に旭川養護学校にお邪魔し、車椅子体験やゲームを通した子どもたちとの交流をして他障がいを学びました。

そのときの様子は、旭川養護学校の公式noteで配信していただいている。



◎旭川養護学校は、肢体不自由のある子どもたちの特別支援学校です。



車椅子体験



ゲームを通した交流

一足先に盲学校から帰らなければならなかつた私は、交流してくれる予定の小学部低学年の男子児童に話し掛けました。「今日は交流してくれてありがとうございます。握手をしてください。」とお願いして握手をしてもらいました。握手をしてくれた彼は、「カサカサですね。ハンドクリームを塗ったらいいですよ。」と優しく教えてくれました。

視覚障がいでは、触ることで学ぶ場面が多いため、盲学校の先生方はきっと、日常的に子どもの手に触れるということに気を配っているのだろうなと思い、「ハッ」と気付かされ、ありがとうございました。

校長先生や教頭先生をはじめ、旭川養護学校の皆さん、旭川盲学校の皆さん本当にありがとうございました。可能であれば聾学校にも来てください。これからもどうぞよろしくお願ひします！！

※ 旭川盲学校は、旭川聾学校と創立者（初代校長）が同じである姉妹校です。